

大学教育だより



RDHE 2017.3 No.14

Center for Research and
Development of Higher Education

大阪市立大学
大学教育研究センター

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
(全学共通教育棟5階)

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/>

これまでの記事は <http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/publications/index.html> から読めます

大学教育だより No.14

Voice～学生の声

Campus Inquiry

OCU Education News

Center Now & Human

- 経済学部と工学研究科の学生交流と意見交換会
- ウチの学部・研究科・センターではこんな教育を行っています！
医学部医学科・医学研究科／医学部看護学科・看護学研究科／創造都市研究科
- 市大教育ニュース！
副専攻制度／English Café／学修支援推進室（OCUラーニングセンター）
- 大学教育研究センターの活動・研究・スタッフ紹介

アン ロゾ (Un roseau) No.17 : 縦書き部分

- 池上 知子 先生 (文学研究科)
- 保尊 隆享 先生 (理学研究科)

Voice ～学生の声

経済学部と工学研究科の学生交流と意見交換会

— 大学での学びと進路選択:現場を見る学びとリーディング大学院プログラム

経済学部と工学研究科の学生交流と意見交換会は、2016年10月19日(水)に開催されました。経済学部の学部生と工学研究科の大学院生にお集まりいただき、それぞれが取り組んでいる学びや課題を発表し、卒業後のキャリアなどについて意見を交換しました。参加した学部生と院生は、経済学部が6名(2～4年生各2名)、工学研究科が4名(修士課程1～2年生各2名)でした。工学研究科の4名は全員、博士課程リーディング大学院プログラムの履修生です。参加教員は、経済学研究科の松本准教授、工学研究科の兼子教授および大学教育研究センターの飯吉教授でした。



技術経営特論を聴講して

【司会】それでは最初に、先ほどの技術経営特論を受けていただいて、工学・経済学の立場でそれぞれご意見をいただければと思います。

【工:院生A】自分が実際にベンチャーを起業するとしたらどんな問題が起こるのかに注意を払いながら聞いていました。そ

意見交換会に先立ち、大学院共通教育科目として開講されている「技術経営特論」の第3回目を参加する学生と教員で聴講しました。第3回技術経営特論の講師はOGIS-Internationalの出馬弘昭氏で、「大阪ガスグループのオープンイノベーション」という題目の講義でした。講義では、米国シリコンバレーでのベンチャー企業の最新の状況についてのお話があり、自社ではなく外部の組織と協同して開発をすすめるオープンイノベーションについていくつかの事例をもとに解説されていました。特に、「成長の遅い分野はつぶれても構わないという常識がシリコンバレーにはある」とのお話が印象に残りました。



これは理系であることに関係しているのかもしれませんが、経済学部の方はどのような視点であの話を聞いていたのかは気になっていました。

【経:学生A】私は大企業側から見ていて、どう巻き込んでいくかとか、買収していくかという目線で聞いていたので、先ほどの「ベンチャー側から考えていた」という意見がすごく新鮮でした。

経済学部と工学研究科の学生交流と意見交換会

- 【経:学生B】僕は内定先がベンチャーなので、就活の視点から見ていました。日本はまだ保守的というか、ベンチャーに対するイメージが追いついていないと思います。世間的なイメージがもっと明確になっていたら、ベンチャーに対する環境もよくなるのではないかと考えていました。
- 【経:学生C】新しい開発では利益は出るとは思いますが、古いモノとの交換には導入コストがかかるし、その損失を考えるとどうなるかがちょっと気になりました。
- 【工:院生B】配車サービスのベンチャーであるUberの台頭によってタクシー業界が危機にさらされている話がありました。それによって職を失う人たちが出てきた場合どうなるのかなというの、単純に疑問に思いました。
- 【経:学生D】別の機会に「弱いものは潰される」という内容を聞いた際も、納得いかなかった。
- 【経:学生E】ベンチャー側からの視点で破壊を目指して、逆にオープンイノベーションではみんなが協力することでいいものを生み出せるというのは矛盾していると感じました。
- 【経:学生B】モチベーションとして破壊というのは、世間的にはウケはよくないと思います。日本人とか特にそういうのを嫌うので、そこら辺の見せ方というのも大事なかなと思います。
- 【工:院生C】破壊という言葉の響きは確かに悪いですけど、最近の研究や技術はそういうモチベーションでどんどん進んでいるので、それはそれでいいのではないかなと思っています。ベンチャーというのは自分で世界を変えようという意欲のある人がやるので、そう考えると日本というのはハングリー精神が足りないのかもかもしれません。



経済学部での学び: 「現場の重要性とグループワーク」について

- 【司会】経済学部では「現場をみること」を重視した教育が行われていますが、現場の人の反応などから勉強になったと思うことはありますか。
- 【経:学生A】私たちの学年のゼミでは西成区の生活保護受給者の居場所・生きがいづくり支援事業現場を研究したのですが、実際に受給者の方が我々と変わらなかったり、負い目を深く感じていたり、身を持ってここまで体験したのは初めてでした。
- 【工:院生A】生活保護受給者支援でも、居場所・生きがいづくりという話は初めて聞いたな。
- 【経:学生A】そうですね。全国的にみても生活保護受給者の居場所づくり事業は先進的な取り組みであるらしいです。
- 【経:学生B】現場に行って思ったのは、受給者の方は怖いイメージがあったけど、実際は気さくな人も多かったということ。市民や区民の人にも関わる場があればイメージは変わるのではないかなと思いました。
- 【工:院生A】その人たちもそうやって働くというか、社会のために貢献しているから居場所を見つけることができるんですね。
- 【兼子】頭で考えていることと、実際現場に行くって思うことは大分違いますよね。現場を見る大切さとか、社会とかかわる大切さとか、実際は理系の人ももっとちゃんと考えないとイケない話ですね。理系でも人とかかわることとか、現場を大切にすることなどを演習で組み込んでいけたらいいと思う。
- 【工:院生A】現場がどこにあるのか。(私がやっている)基礎研究の領域では、現場が遠すぎて(笑)。
- 【工:院生B】(3回生のゼミ生さんたちは)徳島県神山町の現場で現場に行くだけではなく、テレビ会議で現地の方々と議論したそうですね。どうでしたか。
- 【経:学生E】前期の現地調査では、まだ浅い内容の調査で終わってしまったのですが、再度、後期に調査に行くことになり、もっと深いところまで調べたいと思いました。そこで調査の意義や内容について事前に県庁や町役場の意見を伺い議論することで、調査自体がより洗練されました。
- 【松本】自分たちの調査の狙いを定めると同時に、現地の人たちから今何がホットで、何を調査すれば面白そうかのアドバイスやヒントをもらうことは重要です。ただ、徳島県に何度も足を運ぶのには費用

- も含めて大変なんですよ。その意味でもテレビ会議は有効でした。
- 【工:院生A】調査費用や交通費は全部研究室で出すんですか。
- 【松本】全部自腹です。
- 【兼子】(理系の)君たちの学会などの費用は研究費から出てるんじゃないの。
- 【経:学生E】わぁ、うらやましい。
- 【松本】本当うらやましいです。僕らにもください、1万円でいいので(笑)。話は変わって、経済学部ではグループワークを大事にしている、1回生からやっているね。1回生の時のイノベティブ・ワークショップを受講したときの感想はどうでしたか。
- 【経:学生C】大学に入学した当初は、結局講義も聴いて、テスト受けて、単位をとるだけでこのままの4年間でいいのかなと思いました。でも1回生の後期にグループワーク中心の演習授業を受講して、こんな授業もあるのかと思いました。また、演習型授業をやることで講義型の授業でも活かせることが分かり、講義を聴く動機づけにもなったと思います。



- 【経:学生F】僕は高校でもグループワーク型の授業はなかったので、最初はどうやればいいのか全く分かりませんでした。ただ、周りの意見を聞いたり、他のグループの発表を聞くと、違いも痛感したり、もっとやらないといけないという気にもなりました。今日も3回生や4回生の先輩の発言を聞いても自分と全然違い、凄いのです(笑)。
- 【経:学生D】全然そんなことないよ。私もゼミに入ったときは大したことなかったです。でも頑張ろうと思えるような場所や仲間がいたことが大きかった。
- 【経:学生E】僕もグループワークをすることで自分の考えもはっきりしてきたし、成長できた実感があります。
- 【松本】でも、飯吉先生。市大全体でも1回生からこういう双方向型のActive Learningをやるというのは、文系理系問わずやろうという考えはありますよね。
- 【飯吉】いま市大は文部科学省の大学教育再生加速プログラム(AP事業)に採用されまして、その立ち上げに私も関わっています。授業の中で、双方向型で学生がもっと参加していく、能動的に深く学ぶための支援もやります。また授業だけではなくて課外の学習を支援するプログラムも開発しようとしています。これは理系文系問わず大事なことだと思います。だから、他の先生方もタイアップして授業や学修支援を開発していきたいと考えています。



- 【兼子】グループワークは、初年次教育でも少しやっていますよね。大学入りたてのところだと、学部が違って、まだ学生間の個性が違わないんですけども、本来はもう少し上の学年でやって、ある程度その専門の分野を学んだ人同士でもう一回ディスカッションをやったほうがいいかもかもしれませんね。
- 【飯吉】そうですね。私も4年生ぐらいになって、自分が学んできたことをフル稼働して、分野を超えて、何か1つの課題について一緒に解決策を考えるというような授業をやったら、今まで学んできたことの総括にもなるし、分野を超えた人たちと協働する力のようなものが養えると思っています。

リーディング大学院プログラムでの取り組みと学び

- 【兼子】博士課程リーディングプログラムは文科省の大学院教育プログラムの1つで、グローバルに活躍するリーダーを専門分野の枠を超えて育てていこうというもので、府立大学と協力して申請し、採択されました。本学のリーディングプログラム「システム発想型物質科学リーダー(SiMS)」は、産業界で活躍できるリーダーを育てようというのが特徴で、幅広く階層的な分野を俯瞰的に考えられ

るような人物を育てることを目的としています。プログラム履修生は、所属する専攻での教育課程の科目にプラスして、リーディングプログラム独自の科目を前期・後期課程の5年間で履修する必要があります。また履修生支援のために返済不要の学習奨励金制度が設けられています。

それでは、まず戦略的システム思考力演習での取り組みについてご説明願います。

【工：院生A】戦略的システム思考力演習(戦シス)では複雑な物事を俯瞰的に見る「システム思考」を取り扱うのですが、僕なりの解釈では価値のあるアイデアを生み出す考え方を身につけようというものです。私たちのグループで取り組んだのは府大動植物図鑑アプリのアイデアです。このアプリではユーザーが図鑑を作ったり、また別のユーザーがそれを閲覧したりできたりというものです。戦シスでは、このアプリの構造に矛盾がないようその仕様を論理的に考えていきます。

【経：学生E】理系なので論理性がものすごく究極まで追求され、ものすごく突き詰めてられているのはすごく感じさせてもらいました。

【経：学生B】文系ももちろん、プレゼンで論理は重視されるのですが、質問のされ方がほかの関心に広がるような質問が多いのかなという印象があります。理系のほうはどっちかという理屈のほうを突き詰めていくのではという印象は受けました。

【兼子】理系学生は専門外の方の考えに無頓着になりがちですが、この講義では、それをカバーするために、専門の違う先生方も集まって幅広い質問をいただいています。

【司会】それでは次にグローバルな体験についてお願いします。

【工：院生C】キャリアプラン作成に係わる海外研修のために、シンガポールに5日間滞在しました。まず初めにシンガポール大学で、その研究室のメンバーと交流を行いまして、イノベティブな研究とは、研究者にとって必要な素養とはなどを議論しました。ほかにもシンガポールのいくつかの会社に行ったりしました。このプログラムでは、普通の大学院生では経験できないさまざまな経験をさせていただき、グローバルに活躍できる研究者になりたいと強く思うようになりました。



【司会】どういった企業に入りたい？

【工：院生C】全然そもそも今わからなくて、有名な会社に漠然と入りたいなと思っていたんですけど、大企業が必ずしもいいわけではないというのを最近感じ始めています。

【松本】自分がやりたいこととか、おもしろいこと、興味あることというのを考えていけばいくほど、ベンチャーがいいとかどうかわからないけど、考え方が変わっていくのかな。

【工：院生C】そうですね。ベンチャーって全然考えてなかった。

【経：学生B】僕の場合は、リスクは嫌いなのですが、大企業に入るこのほうがリスクだと思っています。ベンチャーに入って自分の力をつけたいというのがあるのですが、理系の場合はどうですか。

【工：院生C】僕は、新しいアイデアや商品を生み出していくのが夢です。大企業では、自分のやりたいことをやらせてもらえない印象があります。そう思うと、ベンチャーで自分の研究を自由にできるのはいいかなと思います。

【司会】次に研究室ローテーションについてお願いします。

【工：院生D】まず前提として、工学研究科の大学院生は1つの研究室に所属し、基本的にはほかの研究室に移ることはありません。専門性が非常に高い反面、それ以外に対する視野が狭くなっていきます。これを克服するために、専門以外の研究室で三ヶ月間研究することがカリキュラムに組み込まれています。私自身は、テラヘルツとい電波と可視光の間の電磁波を発生させる研究をしています。この研究はアウトプットが決まっておらず、本当に基礎研究です。これの対極として、ローテーション先には、大阪府立大学の知識情報処理研究室というものを選びました。この研究室では、ロボットが実現すべき課題を設定し、それらを実現するためのソフトウェア及びハードウェアの開発を行っています。ローテーション先では、僕はロボットの物体認識に取り組んでいます。情報系のプログラミングなどの知識がなかったのですが、いろいろ勉強している最中です。

【司会】経済学部の方も、途中でゼミをかわるなどは考えたことはあるでしょうか？

【経：学生A】一応ゼミ2つを取ることもできるのですが、実際に主ゼミ・複ゼミとゼミ2つを取っている人は、すごく少ないのです。でも、先ほどの話を聞いていたら、もっと複ゼミを活用していったらおもしろ

いなと思いました。

【松本】複ゼミとかやり方は多分いろいろあると思うのですが、ゼミをかわればいいとかではなくて、いろんな意見をいただけるほうがよいなとは僕も思っています。

大学での学びと進路選択について

【司会】これまで現場での学びやグループワークの経験と、ご自分の進路選択に対して、影響があったり役に立ったり、そういう実感はありますか。

【経：学生A】実感があつたかと言われたら分かりませんが、企業の面接でゼミで頑張ってきたことを説明したら、会社に入ってからそのプロセスは似たようなものだと言われることが多かったです。

【経：学生B】就活などのグループディスカッションなどは、ゼミでやったグループワークと、本質的には一緒だと感じています。相手の意見を聞いて、何故だろうと立ち止まって考えて、自分の意見も言うだけではなく、相手の価値観なども理解しようというところが、ゼミを通じて学んだことだと思います。



【司会】工学研究科の方たちはどうですか。

【工：院生A】もともと僕は、教授になりたかったんです。でもSiMSのプログラムに参加して、様々な授業を受けて、会社も結構面白そうで、他にも選択肢があるかなと思っています。

【工：院生B】僕は普段、関わりのない分野にも興味があります。だからSiMSのプログラムに参加して、様々な分野の人と関わって、面白いと思いました。そのため、例えば企業に入るとしたら、いろんな人がいる、いろんな事業をやっているようなところに行ってみたいなという思いはあります。

【工：院生D】僕は日ごろ、研究室の研究以外のことを全く考えない生活を送っていますが、SiMSのプログラムに参加して視野が広がり、自分の専門以外の分野にも関心が広がりました。

【工：院生C】僕は、経済学部の方の話と理系の研究室とは同じことだと思って聞いていました。大切なこととしてコミュニケーション能力だとか、問題解決能力を養えとはずっと言われているので、研究だけではなく、企業に入ったときなどに役に立ったらいいなと思って、文系のゼミの話も聞いていました。



【司会】経済学部の3回生の二人は、理系の話とか聞いて、何か進路などについて思ったことはあるかな。

【経：学生D】まだ自分の進路の方向は定かではないのですが、工学研究科の方々の話を聞いて、論理的に追究することは大事だなと思いました。ゼミでもいつも言われていますが。

【経：学生E】僕も、工学研究科の方々の話を聞いて、論理的な研究を自分たちも突き詰めていく必要性を感じました。就活のことを考えても、自分の考えを論理的に伝えるということが大事になると思います。

【松本】今日はありがとうございました。一番勉強になっているのは我々教員ですね(笑)。

【兼子】今日は遅くまでおつき合いいただきましてありがとうございました。なかなか、我々教員側も学生側も、他学部の学生さんや先生方と直接意見聞く機会というのは非常に少ないですので、すごくいい機会になったと思います。今日はありがとうございました。

参加教員の感想

経済学部で大事にしている学びのあり方が工学研究科のみなさんにも受け入れていただけたことがとても嬉しく思いました。今後も理系文系協働の企画があるといいなと思っています。(経済学研究科 松本 淳)

長時間にわたる意見交換会でしたが、米国のベンチャー企業活動の理念の是非や卒業後のキャリアについて、理系・文系双方から様々な考えが述べられ楽しく聴講できました。特に経済学部学生の「大企業に入るほうがリスク」という考えは印象に残っております。(工学研究科 兼子 佳久)

文責：大学教育センター兼任研究員 経済学研究科准教授 松本 淳
工学研究科教授 兼子 佳久

ウチの学部・研究科・センターではこんな教育を行っています！

医 学部医学科・ **医** 学研究科

医学研究科での教育FD (Faculty Development) 活動について

質の高い医療を提供できる医師養成機関としての水準を評価し、保証するために実施されている、医学教育分野別認証評価の受審が順次始まっている。本学も2017年度に受審するが、これには教職員の教育に対する意識改革が強く求められており、継続的かつ実践的なFD教員団の能力・資質の開発や向上のための取組みにすべての教職員が積極的に携わることが必要不可欠である。現在、医学研究科で継続的に行っているFDについて紹介する。

今後も、本学の大学教育研究センターとリンクして継続的に効果的なFD活動を行ってきたい。

(1) FD 講演会

2014年度から開始し、2016年度以降は年4回の定期開催予定である。毎回1時間で、日々の講義・実習にすぐにも応用できる内容を、コンパクトに伝えるよう企画している。毎回150名程度が参加するが、「医学教育について再考するきっかけになった」、「具体的な講義・実習の新しい形は参考になる」等のコメントが寄せられている。

2015年3月

「全国医学部長病院長会議が目指している最新の情報について」荒川哲男研究科長

「参加型臨床実習の実際」棚野吉弘講師

「認証評価に向けた神戸大学医学部の取組みと現状」荻田典生神戸大学教授

2015年7月

「分野別認証評価取得に向けた本学の現状」豊田宏光講師

「参加型臨床実習とシミュレーションセンター(SSC)の活用」棚野吉弘講師

「SSC実習の実際」江原省一、鎌田紀子講師

「English Conferenceのスズメ」大畑建治教授

2015年12月

「医学英語実習の実際」SSC 奥幸子研究員

「分野別認証評価取得に向けた本学の現状：基礎医学分野」三浦克之教授

「カンファレンス活性化の工夫と参加型臨床実習の実際」首藤太一教授

2016年6月

「分野別認証評価取得に向けた本学の現状」豊田宏光講師

「整形外科グローバル化への取組み」寺井秀富准教授

「新たな医科細菌学教育の取組み：シームレスな感染症教育を目指して」金子幸弘教授

2016年10月

「ICTを活用した新しい医学教育の可能性～反転型実習導入の試み～」並川浩己先生

「医学生に対する大阪市保健福祉センターでの実習について」福島若葉教授

「分野別認証評価受審に向けた本学の準備状況」棚野吉弘講師

2016年12月

「分野別認証評価受審に向けた本学の準備状況」豊田宏光講師

「医学科4年生におけるe-learningの導入
臨床スタート-実習での試み」金子幸弘教授

「早期診療所実習

医学科1年生に対するearly exposure」板金広医学部同窓会理事



2015年12月のFD講演会

(2) 「臨床研修指導医養成のためのワークショップ(WS)」

厚生労働省から指定される1泊2日のWSである。本学学術情報センターで年1回開催しており、2015年度までに13回、のべ500名以上の教員が受講している。教育における目標、方略、そして評価について、理論と実際を小グループ形式で学ぶこととなる。受講者からは「医学」について学んできたが、「教育理論」についてはじめて学べて新鮮であった、との意見が多い。

医学研究科 教授 総合医学教育学 首藤 太一
大学教育研究センター兼任研究員・
医学研究科 教授 細胞機能制御学 広常 真治



2016年2月のWS修了式

学部研究科 教育・FD 紹介

Campus Inquiry

ウチの学部・研究科・センターではこんな教育を行っています！

医 学部看護学科・**看** 看護学研究科

医学部看護学科の授業 — 質の高い看護職者の育成を目指した授業 —

医学部看護学科における教育

医学部看護学科では、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を培い、変化する社会に対応できる総合的看護実践能力と、基礎的な指導・調整能力を備えた看護職者の育成に取り組んでいます。

授業は、基礎科目、専門基礎科目、専門科目に区分され、基礎科目では講義を中心に大学生に必要な知識と社会人に必要な教養を習得し、自主的・総合的な判断力を養成しています。専門基礎科目では、講義と演習により人間を身体的、精神的、社会的側面から総合的に捉えることができるように配慮されています。専門科目では、講義に加え演習と臨地実習を中心に疾病の構造の変化及びこれからの社会の医療ニーズに対応でき、また、看護の理論に基づき対象を全人的に捉えることができるような教育を行っています。

看護に必要なスキル

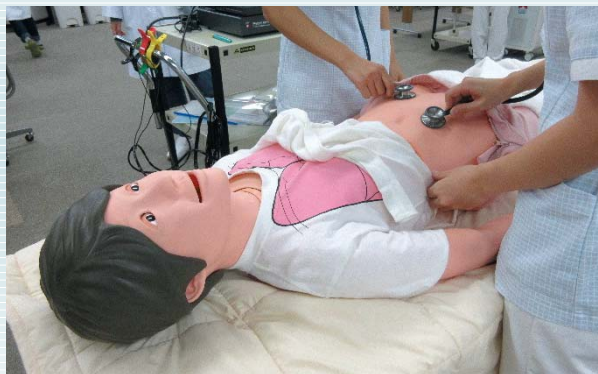
看護は「人」を対象としているため、医学的・科学的な側面だけでなく、対象者の思考や価値観、文化など個人的な側面を考慮して看護を提供する必要があります。そのためには、理論やエビデンスに基づいた知識とともに、専門的な技術、問題解決能力、対人関係能力といったスキルが重要となります。専門的な技術は、対象者の状態を正確に把握し、正確かつ安全・安楽に看護を提供する技術です。問題解決能力は、特に対象者の病態、重症度、緊急性などを判断し、どういったことが問題であり、問題を改善・解決するために必要な看護を思考し判断する力です。対人関係能力は、対象者や他職種スタッフとの円滑で豊かなコミュニケーションをはかる力です。こういった教育は、対象者と直接かわることで効果的に養われていきますが、限られた臨地実習時間のみでは十分な体験ができない状況にあります。

様々な工夫による演習の充実

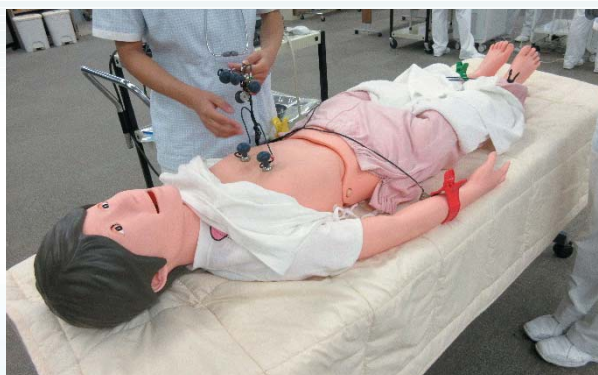
限られた臨地実習経験を補うために、医学部看護学科では、実習室やスキルスシミュレーションセンターを活用して模擬体験による技術トレーニング、ロールプレイ、DS教材を用いたバーチャル学習などを取り入れることにより、看護に必要なスキルトレーニングを強化することで看護実践能力の向上につとめています。



実習室で外科包帯法シミュレーターを用いたトレーニング風景



スキルスシミュレーションセンターでのトレーニング風景



このような演習により、スキルトレーニングを積み重ねることで、根拠ある質の高い看護を提供できるような看護職者の育成に役立てています。

大学教育研究センター兼任研究員 看護学研究科 講師
村川 由加理

学部研究科 教育・FD 紹介

これまでの記事は <http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/publications/index.html> から読めます

ウチの学部・研究科・センターではこんな教育を行っています！

創造都市研究科

創造都市研究科の紹介 — 社会人向けに少人数のインタラクティブな教育を実践 —

学びの風景

創造都市研究科は社会人を対象にした大学院で2003年に開校しました。「都市」をキーコンセプトにした学びの場であり、少人数のインタラクティブな教育を重視し、教員と学生が一緒になって問題解決に資する「知の創造」に取り組んでいます。現在、修士課程と博士(後期)課程合わせて約200名が学んでおり、これまでの修了生は1000名を超えます。主な教室は大阪駅前第2ビル内の梅田サテライトにあり、平日夜間と土曜の授業がメインです。

勤務を終えた後にみなさんが教室に集まる光景は、知的好奇心に満ちた、一種、イノベティブなコミュニティ、「サードプレイス」のようです。学生には、経営者、起業家、サラリーマン、公務員、NPO代表はじめ、市町村長や議員など政治家の方も少なくありません。最近ではアーティストやクリエイター、フリーランスの方も目立ちます。年齢は30代から50代が中心ですが、20代から70代まで広く在籍し、世代や職種を超えた異世代の学びの場となっているのが特色です。また、都市・地域をテーマに勉強するため、まちづくりに関心のある方が多く、居住地、出身地、勤務地、事業を営む地などで、自分のフィールドを各自もっていらっしゃるのも特徴です。

中心概念としての 「創造都市」と各専攻分野

「創造都市」は都市再生についての中心的概念のひとつとされます。グローバル化の進行や知識情報社会への変容過程のもとで、世界的に注目される都市戦略の理念でもあります。

都市は、これまで、数多くの文化、芸術、学問、思想、ビジネス、生活スタイルなどを生み出す場となってきました。それこそが都市の活力や基盤でもありますが、創造都市とはこのような機能を十分に発揮する要件を備えた都市のことをいい、研究科では実践的にそうした役割を果たす人材の育成に取り組んでいます。

修士課程は、都市ビジネス専攻(アントレプレナーシップ研究分野、アジア・ビジネス研究分野) 都市政策専攻(都市経済・地域政策研究分野、都市公共政策研究分野、都市共

生社会研究分野) 都市情報学専攻(知識情報基盤研究分野、情報システム創成研究分野)の3専攻7分野からなります。博士(後期)課程は、都市政策、国際地域経済、事業創造、共生社会創造、都市情報環境の5領域で構成されています。多様な分野から都市・地域問題に接近し、既存の枠にとられない学際的な研究をめざしてきました。

特色あるワークショップ

なかでも、各分野で週に一度開かれるワークショップはもっとも特色のある授業です。毎週、当該分野の第一人者をお招きして、いまなにが問題か、それについてどう考えているか、講義いただきます。その後、学生とゲストスピーカーの質疑の時間をとり、十分に討論します。社会の問題を先進的に察知するとともに、多角的に将来を展望する機会を提供しています。



ワークショップの光景

このように、ふだん仕事では出会うことのない者同士が、「都市」「地域」の原理を勉強するという目的で集まって、実際に多様な化学反応が生まれています。都市の本質である人の交差する場を意識的につくって、社会ニーズを先導していく立場を担っているのも創造都市研究科の特徴といえます。

創造都市研究科 准教授 松永 桂子
(2016年度創造都市研究科総務委員・FD担当)

大阪市立大学 副専攻制度

大阪市立大学は、2015(平成27)年度より、主専攻(それぞれの学部・学科で修める単位)に加えて、さらに広く、深く、自発的な学修をすすめたいと考える学部生を対象に、ふたつの副専攻を設立しています。学習余力と意欲と能力があり、主専攻と副専攻を両立でき、各副専攻が求める要件を満たす、の3つを備えた人であれば、学部を問わず履修することができます。

詳しくは、入学手続き書類に同封されている「副専攻ガイド」をご覧ください。

GC(Global Communication)副専攻

- 目的 : 不確実な社会で生き抜くことのできる語学運用能力とグローバルマインドを涵養する
- キー演習 : GC総合演習 1・2・3 1年次後期～2年次開講
- キー海外研修 : GC_Int(GC副専攻専用カナダ・ビクトリア大学語学研修)
1年次後期、学年末実施
成績優秀者・語学運用能力上位者には研修費支援制度あり

2017(平成29)年度の正式登録者募集は7月です。2017(平成29)年度入学の1回生のみGC副専攻に登録できます。希望者多数の場合は、各種語学力テストのスコアに基づいて選抜が行われます。

登録希望者向けガイダンス日程については、全学ポータルサイトおよびチラシにてご案内します。関心のある方は、入学後から語学(特に英語)のスキルをバランスよく伸ばし、副専攻の登録・履修に備えましょう。

CR(Community Regeneration)副専攻

- 目的 : 大阪を拠点として、変化し続ける地域・社会の問題を解決するとともに、その発展に貢献できる人材を養成する
- キー演習 1 : 地域実践演習(GATSUN) 1・2年次向け
- キー演習 2 : アゴラセミナー Ia / Ib / II 2年次以降向け

2017(平成29)年度の地域実践演習履修希望者向けの説明会が開催される予定です。CR副専攻への登録には地域実践演習の受講が必須要件ですので、希望者は説明会に必ず参加してください。説明会の日程については、全学ポータルサイトおよび市大COC事業サイト(<https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/coc/>)にて事前にご案内します。

関心のある方は、全学共通科目の中から大阪・地域にかかわる科目を積極的に学び、副専攻の登録・履修に備えましょう。

English Café

グローバルビレッジ(全学共通教育棟1階)内にあります

English Caféは、英語の自学自習に使えるPCが設置されているほか、英語の新聞や雑誌などが置かれており、Café内で自由に使用可能。英語を学びたい学生であれば、だれでも自由に利用できます。



English Café Talk

English Caféでは、ネイティブの先生と自由におしゃべりをして英語の力をつけるEnglish Café Talkという時間を設けています。月曜、水曜、木曜の午後4時30分から1時間、ネイティブの先生がみなさんを待っています。なにを話すのも自由。楽しい時間を過ごしましょう。

(Café Talkの内容は変更になる可能性があります)

English Café Talk Special

通常のEnglish Café Talkでは担当の先生は1人ですが、年4回開催予定のEnglish Café Talk Specialでは、担当の先生3人が全員集合。お菓子を囲み、季節のテーマに沿った話で盛り上がります。



(画像は Halloween Specialの様子)

学修支援推進室

こんな相談ができます! **オープン!**

- ? レポートってどう書くの?
- ? グループワークってどうするの?
- ? 自主的に学べて言われるけど、どうすればいいの!?

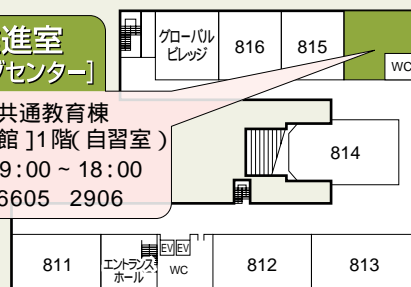


● 専属スタッフが相談に応じます。

* グループワークや自習ができるスペースも併設しています。

学修支援推進室 [OCUラーニングセンター]

場所: 全学共通教育棟
[8号館]1階(自習室)
開室時間: 平日 9:00 ~ 18:00
連絡先: 06 6605 2906



大学教育研究センターは「こんなこと」に「こんなメンバー」で取り組んでいます！

FD (Faculty Development) 活動

(1) FD 研究会 (年1回)

FD 研究会は、大阪市立大学における教育の向上を図るための学内外の教育改善・FDの取り組みの紹介や、本学の教育のあり方に関する全学的な情報共有や議論を深める場として設定されています。例年、100名前後が参加してきた大きな研究会です。2016(平成28)年度、第14回の全体のテーマは「大学院教育の現状と展望 大学院生キャリア形成支援を中心に」でした。



(2) 教育改革シンポジウム (年1~2回)

教育改革シンポジウムは、大学をめぐる多様な課題について、学内外の情勢を鑑みながら全学的に考えを深めることを目的に開かれています。2016(平成28)年度は、第24回全体テーマ:「学生の主体的な学びを幅広く授業のあり方考える 反転授業を活用したアクティブ・ラーニング」講演題目:「学生の深い理解を促すアクティブ・ラーニング 反転授業導入の可能性を考える」(講師:関西大学 森 朋子先生)でした。



(3) FD ワークショップ・大学教育研究セミナー (年数回)

FDワークショップと大学教育研究セミナーは、ワークショップ形式またはラウンドテーブル形式等を取り、主に学内の参加者間で授業デザイン事例など教育実践事例や大学教育に関する研究活動の成果の紹介とそれらについての意見交換を行う場として設定されています。

研究成果の発信と広報

(1) 大阪市立大学大学教育研究センター紀要『大学教育』

主として本学の教育に資する研究成果の発表の場として、学内はもとより全国から投稿を募り、年に1~2回発行する査読付き学術雑誌です。センターのFD活動・研究活動の報告の場でもあります。

(2) 大学教育だより & Un roseau (アン ロゾ)

本学の学生・教員および学外の方々に、総合大学である大阪市立大学における様々な教育の取り組みと、学生の学びの様子や可能性を知っていただくための教育広報誌『大学教育だより』と、本学での学びの道しるべとしての全学共通教育総合教育科目ガイドブック『アン ロゾ』を、2006年度から合冊発行し広く学内外に配布しています。また、『新入生のための授業選び案内』も、別冊発行しています。

センターが関わっている研究活動

(1) 学修の評価に関する研究

本学で学ぶ学生・院生の学修成果の状況を把握し、教育のさらなる充実や改善につなげていくために、学士課程・大学院課程の在 student と卒業生・修了生に対するアンケート調査などを実施しています。また、成績評価結果をもとに学生一人ひとりが何を身につけてきているのかを自身のキャリアデザインも踏まえて捕捉できる仕組みであるOCU指標の開発にも協力しています。

(2) 教育実践・カリキュラムの開発と評価に関する研究

初年次教育関連: 総合性と専門性を兼ね備えた「大学での学び」への円滑な移行のため、初年次教育の全学的質保証に取り組んでいます。学部学科の多様性を踏まえつつも、すべての1年生に求められる学習目標を達成しうる仕組みについて検討しています。

副専攻プログラム関連: 2015(平成27)年度より、大阪市立大学にはふたつの副専攻が発足しました。ひとつは、グローバル社会で生き抜く基礎力を幅広く Global Communication 副専攻、もうひとつは、地域に根差し、地域で活躍できる人をはぐむ Community Regeneration 副専攻です。センターは、これまでに行ってきた教育評価研究と実践を足掛かりに、副専攻カリキュラムデザインとシステムデザイン、修了認定にかかわる評価方法等の策定を支えています。

学修支援推進関連: 学生の能動的学修を促進する教育の推進支援を行う学修支援推進室において、自主学修補助教材やTA育成プログラムの開発研究、アクティブラーニング型授業開発支援等を行っています。

大学院共通教育関連: 大学院の研究科を超えて履修可能な大学院共通科目の制度構築を担うとともに大学院生のキャリアデザイン系の新しい演習科目等の開発と提供を行っています。

(3) 本学の教育改善・FDに関する調査研究

本学では、FD(ファカルティ・ディベロップメント)を、本学の学生が真に学ぶ教育の高い質の維持と一層の向上のための、構成員全体(教員・職員・学生)の自律的で組織的な取組として捉えています。センターでは、全学の教育改善・FDを企画推進するとともに、近年急速に活発化している各学部等の教育改善・FDの取組への協力支援も行っています。また、本学教員の教育・FDの日常的活動状況や意識の調査・分析を定期的に行うとともに、集まった教育実践事例を教員相互で活用し合えるWEBデータベースも開発し公開しています。

(4) その他、学内の教育研究・教育改善・開発ニーズに基づく研究

上記以外に、学内ニーズに基づく各種調査・研究活動も行っています。

入学者追跡調査の実施および入試選抜方法や入学後の教育改善に関する研究、全学および学位プログラムごとの3ポリシーの点検・改訂支援、全学共通教育総合教育科目の改善・開発研究、大学教員をめぐす大学院生向け大学教育実習制度の開発・実施協力、大学院生・ポストドクター向けキャリア開発支援の推進など。

2016年度から本学がAP事業に採択されました!

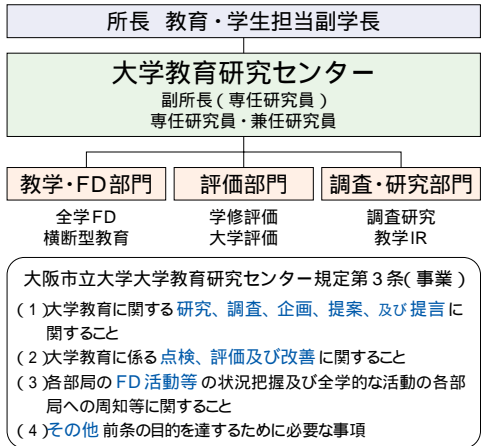
AP事業とは、文部科学省補助金事業「大学教育再生加速プログラム」のことで、高校や社会との円滑な接続のもと、入口から出口まで質保証の伴った大学教育を実現するため、先進的な取組を実施する大学等を支援することを目的とした事業です。大阪市立大学では、テーマⅤ(卒業時における質保証の取組の強化)で「OCU指標とその活用スキームによる学修成果の質保証」の取組が採択されました。OCU指標の開発や学修支援推進室の運営等を初めとして同事業にセンターも協力・支援を行っています。

大学教育研究センター紹介

大阪市立大学 大学教育研究センターは、大学を取り巻く新しい環境の中で、社会の進路を見据えた大学教育のあり方を実現することを目指して研究と開発をすすめるために設立されました。
以下の運営体制(左図)のもと、3本の研究の柱を基本に据えつつ相互に強く関連をもつ各種プロジェクト(右図)に取り組んでいます。

大学教育研究センターの研究

大学教育研究センターの運営体制



高等教育の制度や その役割についての研究

- (1) 学士課程教育システムのあり方
- (2) 学生相談・学習相談システムのあり方
- (3) 社会における大学のあり方
- (4) 生涯学習社会における大学のあり方

全学的FD活動 各種研究プロジェクト

カリキュラム・教育方法の 開発に関する研究

- (1) 学士課程のカリキュラムおよび教育方法の開発
- (2) 初年次教育カリキュラムのあり方
- (3) 授業改善支援システムのあり方

大学教育の 評価および教員評価の あり方に関する研究

- (1) 大学教育評価のあり方
- (2) 大学教員評価のあり方
- (3) FD活動のあり方

大学教育研究センタースタッフの紹介 (平成29(2017)年3月現在)

所長.....

井上 徹
副学長

専任研究員.....

大久保 敦
副所長 大学教育研究センター教授
研究分野: 高校大学の接続 / 科学教育 / 古植物学

飯吉 弘子
大学教育研究センター教授
研究分野: 社会における大学のあり方に関する研究 / 教育学 / 大学教育史

西垣 順子
大学教育研究センター准教授
研究分野: 大学教育の評価に関する研究 / 教育心理学

渡邊 席子
大学教育研究センター准教授
研究分野: 教育支援システムの開発 / キャリア教育 / 社会心理学

平 知宏
大学教育研究センター特任講師
COC教務コーディネーター
研究分野: データに基づく教育改善 / 認知科学

兼任研究員.....

向山 敦夫
経営学研究科教授

松本 淳
経済学研究科准教授

中村 健吾
経済学研究科教授

木下 秀雄
法学研究科教授

山崎 雅人
文学研究科教授

井狩 幸男
文学研究科教授

福島 祥行
文学研究科教授

長谷川 健一
文学研究科講師

高橋 太
理学研究科教授

荻尾 彰一
理学研究科教授

兼子 佳久
工学研究科教授

鳥生 隆
工学研究科教授

事務局.....

清水 浩司
学務企画課長

梅田 佳弘
学務企画課長代理

大谷 敏恵
学務企画課員



編集 後記

本学の教育広報誌『大学教育だより』と全学共通教育総合教育科目ガイドブック『アン ロゾ』(合冊発行)そして別冊の『新入生のための授業選び案内』を今年も発行できました。新入生はもとより在学生の皆さんも、是非ゆっくり目を通して、大学での学びを知り、自らの学びを振り返っていただければと思います。
『大学教育だより』『VOICE』欄では、経済学部の

学生の皆さんが、普段のゼミでのフィールドワークの様子と、工学研究科の院生の皆さんが、参加している博士課程教育リーディングプログラムでの学びの様子を紹介し合い、互いの学修や研究のあり方への理解を深め、自らの学びやキャリア・進路のあり方を考える良い機会となりました。各部署の教育の取組紹介欄では、医学部医学科・看護学科・創造都市研究科の3部署が多様な教育・FDの取組の紹介を、市大ニュース欄では、副専攻制の説明やEnglish力

フェおよび2017年度から本格稼働する学修支援推進室(ラーニングセンター)の紹介を掲載しています。他学部や全学の教育に関する記事にも目を通し、総合大学での学びの意義を実感してみてください。
『アン ロゾ』は、文学研究科の教授の池上先生と、理学研究科の教授の保尊先生が、ご自分の経験も踏まえて、皆さんに、大学での学びについて語って下さっています。是非こちらもご一読下さい。
(飯吉)